

## 平川市新本庁舎建設基本設計（案）に対するパブリックコメントの結果について

～貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました～

1. 募集期間 : 平成30年5月7日（月曜日）から平成30年5月28日（月曜日）

2. 意見の提出 : 市民4人（24件）、市外の方1人（8件）

3. ご意見の内容と回答

※同一の方から同様の趣旨であると類推される複数意見については、「意見等」欄をまとめ、各意見に番号を付しています。

No	項目	意見等 ※原文掲載	市の考え
1	P1 設計趣旨	人口が20年～30年後にはかなり減ることは多くの市民がわかっている。それにもなって職員数も今の現状とは程遠いことになるだろう。新本庁舎の大きさが決まってしまうのであれば私ども一般人としてはどんな意見言ったとしても通らないだろう。これからの先々の事を考え、維持管理があまりかからないように願いたい。	建設後のメンテナンスのあり方を踏まえ、耐久性や維持管理しやすい建築材料の採用や建物内のエネルギー使用状況などを監視するシステムを導入し、光熱水費や燃料費などランニングコストの縮減が可能となるよう比較検討しながら設計を進めています。
2	P1 外観イメージ	窓（ガラス面）が三角の連続された大胆な形状になっているが、平川の風景にあったイメージで計画されているのであれば、それをもう少し丁寧に説明されてはどうか。	平面計画に沿って、配置された機能によって大きな開口部が必要な場所とそれほど大きな開口部を必要としない場所を検討し、サイズの異なる開口部を滑らかにつなぐデザインとしています。建物内のどこにいても、平川の街並みや岩木山、八甲田山の山並みを感じられることを意図しています。
3	P1 設計趣旨	<p>【意見】 省エネの観点からガラス張りとし吹き抜けを止めるべき。</p> <p>【理由】 現状の光熱水費と基本設計時における光熱水費予測との比較や、断熱性能（省エネ基準）などといったデータがないため、省エネであることが資料から読み取れませんでした。</p> <p>資料から読み取れる範囲では、外壁の大部分を占めるガラス窓部分から、必要以上に冷暖房の熱が逃げてしまい非効率だと思えます。また、西面に三角形の2辺が向いていることによる</p>	<p>現在の計画ではガラス部分は外壁全体の40%程度であり、近年の庁舎建築と比較しても過大な面積とはなっておりません。また、使用するガラスの性能にも配慮することで省エネルギー性も十分確保しています。</p> <p>床輻射や床吹出しによる空調を行う部分は通路や待合、執務室などであり、その熱は吹き抜けにも移動することになりますが、吹き抜け空間に溜まった熱は空調の熱源として再利用します。さらに、外壁の断熱性能を高め空調負荷を低減していますので、吹き抜けによる影響を最小限にとどめています。また、一次エネ</p>

		<p>西日対策（日射、熱への対応）も必要となり、デザイン重視により省エネ性能に良くない影響が出ていると思います。</p> <p>業務や市民サービスに直接関係のない吹き抜けも冷暖房をする必要があり、その分余計に油や電気を使うこととなります。吹き抜けによる省エネ効果以上に、光熱水費がかさむのではないのでしょうか。</p>	<p>ルギー消費量の50%以上の削減を目指して実施設計に取り組んでいきます。</p>
4	P 2 計画概要	<p><b>【意見】</b> 全国的な工事集中期を避けて建設時期を見直すべき。</p> <p><b>【理由】</b> 2020年東京オリンピックの影響で、資材、労務費等々の増大が懸念される時期に建設することとなり、建設費の高騰や資材及び人材不足による入札不調などのリスクが考えられます。合併特例債の期限もあると思いますが、2020年以降の整備を検討すべきと考えます。</p>	<p>設計段階からコスト管理を行うことが重要と考えております。市としましては今後の消費税の引上げや人件費及び資材費の高騰など社会情勢の変化を予測しつつ、災害時に備えるため防災拠点施設となる本庁舎の整備が急務であることから、早期の工事発注を目指します。</p>
5	P 3 配置計画	<p>正面入口が旧平賀病院側に配置されており、街並みから考えると裏手に玄関が配置された感があります。顔となる正面玄関がその位置にきて、メイン通りに『ねふた広場』が繋がっていますが、汎用性の高い広場？とするには、普段から行う催しや何らかの企画（仕掛け）をし、人が集まりやすいよう考えることが大変重要になってくると思います。そうでないと一番いい場所が、ただの広場になってしまうことが否めません。</p>	<p>ねふた広場から最も近いエントランスをグランドフロアに設けています。グランドフロアには市民ホールが配置されており、ねふた広場や軒下空間と一体的に、日常的な市民の憩いの場となるよう考えています。市民ワークショップではこの場所を使った様々なイベントの提案も多数ありましたので、今後はその提案を市民の皆さんも交えながら具体化していくことが大切だと考えております。</p>
6	P 3 配置計画	<p><b>【意見】</b> 既存施設の活用の観点からも大規模な植栽は不要だと思う。</p> <p><b>【理由】</b> 中央公園やひらかドームという緑あふれた場所が近隣にあることから、庁舎に新たに作る必要はないと考えます。植栽にも維持管理費はかかること、また、既存施設の有効活用の観点からも植栽は景観上必要な最低限に留めるべきだと考えます。</p>	<p>「人が交流し行き交うことから生まれる賑わいを創出」するため、中央公園とねふた広場を含む庁舎を一体的なエリアとして捉え、ねふた広場にも憩いの場となる植栽を整備するものです。植栽は県道側入り口からのメインアプローチと西側市道沿いの中高木に限定し、他の部分は芝生や背丈の低い植物等による緑化に留めています。</p>
7	P 4～5 ゾーニング・動線計画	<p>全般的に機能的に動ける設計で好感を持てる。特に、高齢者や障がい者に配慮された点は、時代感のあるもので素晴らしい。</p>	<p>更に使いやすい庁舎となるよう実施設計に取り組んでいきます。</p>

8	P 4～5 ゾーニング・動線計画	<p><b>【意見】</b> 三角形の平面計画を止めるべき。</p> <p><b>【理由】</b> 三角形の中心部に吹き抜けがあるため、渡り廊下が必要となり、北側と西側の角部分の利用者動線に無理が生じています。三角形にこだわるのをやめて、一般的な中廊下式や片廊下式とする方が市民及び職員の課室間の移動もスムーズとなり、使いやすくもなると思います。</p> <p>現在のデザイン性の高い平面を実現するための建設費用と、これら一般的な事務所に見られる平面形状で整備する場合の建設費用を比較し、市民に示す必要があると考えます。</p>	<p>○三角形平面を採用する理由 不定形な敷地形状に対し、東側にまとまった駐車場を確保すること、敷地南側への圧迫感を低減すること、敷地北側で駅前通りからの流れを受け止める広がりを持たせることを意図して平面形状を検討した結果、三角形平面を採用しています。</p> <p>○三角形平面の合理性 市民サービスを提供する1階の窓口は建物東側と建物南側の中央付近に集約し、それぞれのエリアの見通しを確保しつつ市民の移動距離が最小限になるよう配慮しています。矩形（長方形）建物で片廊下形式とした場合、三角形平面よりもカウンターが一直線で長くなり、各窓口の視認性が低下する懸念があります。中廊下形式とした場合、待合部分や執務効率の向上を考慮した執務エリアとすると奥行きが40m程度となり、自然採光や自然通風を確保できず、待合スペースや執務スペース環境の低下が懸念されます。</p> <p>総合的に検討を行った結果、敷地形状や求められる諸室の配置を考慮すると三角形平面が合理的だと考えています。</p> <p>○吹抜けの形状や位置 三角形の2辺に執務室や会議室などを配置し、残りの1辺を利用して吹抜けや採光を設けるという考え方です。利用頻度の高い諸室を2辺の交点もしくは中央部に設けることで、吹抜け側の通路が日常的に市民や職員のメイン動線にはならない計画としています。</p> <p>○建設費用について 今回の計画は三角形平面となっていますが、コーナー部分を除いて全て直線部材による構成とし、断面計画上も各階層構成が明確で複雑な形状をもたないものとしています。よって、部材寸法や加工方法は一般的な矩形建物と大きな違いはなく、合理性にも十分配慮して計画を進めています。建設コストを左右する要因は使用資材の数量や加工の複雑さによるものが大きく、今回の計画において、そのような要因によるコストアップは生じておりません。</p>
---	---------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

9	P 4 1 F	ワンフロアサービスは市民の立場を考えたもので大変よろしい	実施設計において、カウンターの設 <sup>しつら</sup> えなどを具体的に検討し、よりよいサービスを提供できるよう取り組んでいきます。
10	P 5 3 F	カフェスペースは一般質問の傍聴に行った際の休憩場として使えるのであれば意味がある	休憩場所としての利用も想定しています。
11	P 5 3 F	設計には関係ないかも知れないが、議場のマイクは音質の良いものの設置を望む	配慮致します。
12	P 6 事業計画 経過	<p><b>【意見】</b> 補助金を基本とした整備費の比較ではなく、将来にわたり必要となるコストも含めて市民へ説明すべき。</p> <p><b>【理由】</b> 補助金を使おうが使うまいが、結果的に建築費として平米いくらかかるのかが問題であって、それも含めて初めて他市事例と比べられるのではないのでしょうか。また、人口1人あたりの整備コストは、病棟の解体があつたにしても、最近整備された弘前市役所（人口約18万人で約70億円）とは比べ物にならないほど高額となっています。</p> <p>いくら整備コストに有利な財源を活用できたとしても、維持管理費は将来にわたり市民の税金から支払われます。このため、庁舎には「真に必要な機能」を満たしながらも、簡素に作る事が求められると考えます。</p> <p>他市との比較ではなく、平川市の将来的な財政予測の観点も踏まえ、ライフサイクルコスト（建設費、維持管理費、将来の改修費等の総額）で最適となっているのかといった検証と市民説明が必要です。</p>	<p>建設費全体の平米単価を抑えることはもちろん重要なことですが、市としましては「建設に当たって市が実質いくら負担するか（起債やそれに伴う交付税算入額、補助金を控除した一般財源額をどれだけ少なく抑えるか）」についても重要と考えております。</p> <p>ライフサイクルコストのうち、維持管理費と改修費等については起債や補助金等がありませんので、その額を抑えることが重要なものであります。しかし、建設費については、事業費総額を抑えることもさることながら、起債や補助金等の特定財源を十分に活用し、市の実質負担額を低く抑えることが最も重要なことであると考えております。</p> <p>概算事業費は基本設計（案）【概要板】2、6ページ記載のとおり約55億円を見込んでおり、その特定財源は合併特例債を活用することを予定しております。この概算事業費約55億円に対し合併特例債を活用した場合は、約70%の36億5千万円相当額が補助（交付税算入）されることとなり、本体の建設費約35億6千万円以上の財源が国から交付されるものです。この施設のライフサイクルコストを見た場合、初期投資の建設費がこれだけ抑えられることは、結果的・総体的に市（市民）負担額の軽減につながるものと考えております。</p> <p>また、建設後の維持管理費についてはNo. 1、3「市の考え」記載のとおり、縮減していくものであり、将来の改修費については財政運営計画において改修の必要性、緊急性、規模、内容、事業費を常に把握し、計画的に進めているところであります。</p>

1 3	P 6 協議経過	市民ワークショップでの意見がどのように反映されているのか、できればワークショップのまとめ（第1～4回）を公表してはどうか。	市民ワークショップでは、ねふた広場や庁舎内市民利用スペースの活用方法等を中心にご意見を頂いております。一例としては、ねふた広場でのねふた運行やその他のイベントを開催することで平賀駅前通りの賑わいを創出して欲しいといった意見があり、ねふた広場は車両の乗り入れも可能となるよう計画しております。なお、市民ワークショップのまとめについては市HPに掲載しています。
1 4	その他	食事をする場が欲しい。（一般質問の傍聴に行った際など）	運用方法にもよりますが、3階のカフェスペースは自動販売機コーナーを設置し飲食可能な場所にしたいと考えています。
1 5	その他	<p>【意見】 地元企業が工事の主体となれる構造を選択すべき。</p> <p>【理由】 現状のデザインや構造では、大手ゼネコンや都市部の建設会社が工事を担うことが多分に予想され、地元企業（工務店、資材会社等）が主体的に工事をするのはかなわないと考えられます。それでは、建設によりもたらされる企業利益の大部分が地域外（弘前圏域外）に流出してしまいます。</p> <p>敷地面積にも余裕があることから、災害時に必要な機能以外は、大規模な鉄筋コンクリート造や免震構造ではなく、例えば、地元木材などを使用した木造平屋などによる整備を行うといった検討があっても良かったと思います。</p>	<p>大地震発生の際に災害対策本部を設置する本庁舎は、家具や什器等の転倒を防いで迅速に災害応急対策活動を行うことが問われます。また、免震装置台数や鉄骨量を減らすなどで縮減した初期費用と大地震後の補修費は、耐震構造と比較すると優れております。以上の理由から、鉄骨造の免震構造を採用しました。</p> <p>庁舎建設工事や備品等の入札に当たっては、地元企業が参加できるような方法を検討いたします。</p>
1 6	その他	<p>【意見】 庁舎整備事業だけではなく、市が置かれている状況と併せて説明すべき。</p> <p>【理由】 公共施設総合管理計画や財政計画による市の公共施設全体を取り巻く現状は楽観視できないと思います。今回の整備事業がその中においてどのようか位置付けかを明らかにしたうえで、初めて庁舎整備の話ができるのではないのでしょうか。庁舎や市民体育館に膨大な予算を割くことにより、大規模改修をこれから控えている施設（ひらかドーム、温水プール、東中学校、西中学校、柏木小学校、尾上総合支所等）はどのようにして乗り切るのかといったことも気がかりです。</p>	<p>市の財政運営につきましては、毎年度、財政運営計画の見直しを図り、財政規律を堅持しながら財政運営に努め、また、公共施設等総合管理計画などを踏まえ、計画的に進めておりますが、市としても楽観視しているものではありません。</p> <p>市の財政規模に対し、現在抱えている負債の大きさを示す「将来負担比率」は、平成28年度決算において、平川市を除く県内9市の平均数値では「100%」を超える状況の中で、当市は「数値なし（負債なし）」となっております。今後、平成32年度まで庁舎等の大型建設事業の実施が続き、多額の起債（借金）の借入れを行う予定ですが、平成35年度末においても当市の将来負担比率は「数値なし（負債なし）」の見込みとなっております。また、返済額の大きさを示す「実質公債費比率」もゆるや</p>

		仮に「心配ない」という回答の場合は、その具体的な根拠も示してほしいです。	かに減少していく見込みとなっているものです。 大型建設事業実施後にいずれ訪れる大規模改修が必要な施設等につきましても、No. 12「市の考え」記載のとおり財政運営に支障をきたさないよう、その必要性、緊急性、規模、内容、事業費を常に把握し、計画的に進めているところであります。
17	その他	<p>【意見】 合併特例債を頼みに大きくてデザイン性の高い庁舎を建てるのではなく、有利な財源を使えない場合においても、予算をかき集めてでも何としても必要な機能や構造、設備などで計画されるものが「真に必要な庁舎」だと考えます。他の自治体の庁舎との比較ではなく、平川市として可能な限り「最小のコストで最大の効果を図る」計画となっているのでしょうか。</p> <p>現状は三角形のデザイン重視で、それを実現するための構造や機能、大きさなどの面からオーバースペックになっていると思います。市民の集まる場やカフェのような「あったらいいな」という機能は、他の既存施設（文化センター等）での補完も十分可能ではないのでしょうか。</p>	<p>市庁舎には充実した市民サービスを提供するという機能以外にも、市の顔としてのシンボル性も必要だと考えます。また、防災拠点としての機能確保も重要な課題です。現在の計画はこのようなことを考慮した上で、庁舎に必要な機能を適正なコストによって建設できるよう検討を重ねたものです。</p> <p>ねふた広場、市民ホール、カフェスペースの行政利用以外の用途で活用する場所については、市民へ開放し、人と人が交流し行き交うことから生まれる賑わいを創出することを計画しているものです。</p>
18	その他	<p>【意見】 全国的な状況と変わらず、人口減少や少子高齢化による平川市の財政状況の悪化は不可避なものです。そこで必要となるのは、周辺自治体と肩比べしてどうかではなく、現実問題として現状のサービスを子供たちの世代においても提供し続けることができるかということです。厳しい将来に備え、今のうちから強化すべきは、象徴的なハコモノではなく、市民（特に将来世代）が普段から使い、避難所などにもなる身近な施設（学校、児童館、集会所等）ではないのでしょうか。</p>	<p>新本庁舎建設の第一の目的は、防災庁舎として必要とされる安全性を満たしていない防災拠点について対策を講じるものであり、改築に伴い、シンボル性や今日的なニーズに合わせた付加機能などを確保するものです。</p> <p>また、市では特に東日本大震災以降、指定避難所として位置付けられた施設の耐震改修や改築を中長期的に整備する計画としております。小中学校や体育施設、古い耐震基準で建設された各集会所の改築または耐震改修を計画的に進め、市民の円滑かつ安全な避難を確保するために公共施設の耐震化率100%を目指すものです。</p>

19	その他	<p>1. 【意見】 市民からの意見を聴取できているとは言えない。</p> <p>【理由】 現在だけではなく、将来世代にも関わる重要な課題であることから、プロポーザルのプレゼン審査も傍聴し、「市民ワークショップ」への参加も希望しておりましたが、公募が行われないうまま、その実施を新聞記事で知ることとなり非常に残念な気持ちになりました。参加者はどのように選定されたのでしょうか。また、設計業者が独自に開催した概要説明および意見聴取の機会も1回のみで、それも平日の数時間に限られており、出向くこともできませんでした。</p> <p>今回のこのパブコメが広く市民の声を聴くための唯一かつ最後の機会なのかもしれませんが、ここまで固まったプランを提示されては、もはやここでの意見を取り入れる余地はほとんどないのではないのでしょうか。広く市民から意見を聞く機会を今からでも再度設けてほしいです。</p>	<p>これまで市民有識者により組織される平川市本庁舎建設委員会や市議会議員による庁舎建設委員会よりご意見を頂きながら事業を進めて参りました。</p> <p>市民ワークショップは地域おこし協力隊や観光協会、市内のねふた関連団体、商工会、市内の各中学校などから推薦された方に参加していただき、新本庁舎完成後の市民利用スペースや駅前通りから繋がるねふた広場等の活用方法についての意見交換の場として開催し、様々なご意見をいただきました。</p> <p>次代を担う子育て世代や若い世代の市民の皆様のご意見については、庁舎建設のみならず、平川市のまちづくり全般にわたって重要であると考えております。</p> <p>市では、よりよい行政サービスを行うため、直接、市長が各地域に出向いて意見を伺う「まちづくり懇談会」を平成26年度から実施しており、各町会を巡回して市民からも庁舎建設について意見をいただいております。</p>
20		<p>2. 【意見】 庁舎の耐震化、防災機能の強化、時代要件に合わせた機能改善などについては必要だと思います。しかしながら、建て替えは最終手段であり、使えるものは賢く使い切る姿勢こそが、次世代が大切に建物を扱う教訓にもつながると思います。</p> <p>100年持つカッコよく大きな庁舎を残してあげることが、今の自分たちだけではなく、子どもや孫たちの未来にとってベストな選択なのかということこそを首長や幹部職員、賛成した議員の方々が胸を張って言えるのかどうか重要だと思います。そういった立場の方から将来を担う子育て世代や若者たちへ説明する機会を増やして、今からでも時間をかけて意見を聞くべきだと思います。広報やホームページで提示するだけではなく、市民説明会などによるヒアリングを望みます。</p>	

2 1	その他	<p>1. 【意見】        建て替えによらない手段による庁舎機能強化の可能性についてこそ、民間事業者から広くアイデアを集めるべきだったのではないか。</p> <p>【理由】        昭和54年建設（築後38年）の建物は、一般的には「大規模改修」の時期であり、「改築（建て替え）」のタイミングではありません。コンセプトにある「長寿命化」と、今回の建て替えとの整合性が図れていません。まだまだ使えるであろう庁舎は、耐震化と大規模改修をして、利用上の課題を解決したうえで使い切るべきではないでしょうか。        建て替えする庁舎の設計ではなく、このような点にこそ広く民間ノウハウ募るべきだったのではないのでしょうか。お隣の弘前市では、平川本市庁舎以上に老朽化した本庁舎に対して、耐震化や必要な機能を加えることで、リニューアルを図っています。</p>	<p>耐震化と大規模改修または改築のどちらを選択するかは平成14年度から議論を行っていましたが、耐用年数のほかにライフサイクルコスト、今日的なニーズに合わせた付加機能確保を加え判断しております。</p> <p>平成26年度策定の基本方針では、将来、合併特例債などの有利な補助金（交付税算入）が見込めないこと、防災拠点機能の充実、ワンフロアサービス、ユニバーサルデザインへの配慮など現庁舎の課題を解決することが出来ることなどを総合的に勘案し改築が最良としたものです。</p> <p>耐用年数はさまざまな評価基準があり、「建築物の耐久計画に関する考え方（（一社）日本建築学会編・発行）」によると、官公庁施設の躯体は高品質の鉄筋コンクリート造の場合は100年以上ですが、普通の品質の場合は60年以上が望ましいとされております。</p>
2 2		<p>2. 【意見】        基本方針における建て替えが有利とする算定根拠が不明確である。</p> <p>【理由】        基本方針における将来費用算定では、事業実施後60年スパンを基準に、建て替えた場合と大規模改修した場合を比較しており、建て替えが有利とされています。しかし、仮に100年のスパンで比較すれば、大規模改修して寿命まで持たせて使った方が有利な計算となることから、算定根拠の説明が不明確です。鉄筋コンクリート造（寿命100年使用も可能）での新築を対象とする以上、100年スパンを区切りとして比較検討し、市民に説明すべきだったのではないのでしょうか。</p>	<p>これに基づき既存庁舎は普通の品質を使用していることから、目標耐用年数を60年に設定し、大規模改修を行って30年間使用し築後60年に改築した場合と大規模改修せず改築した場合のコスト比較検討したものであります。</p> <p>新本庁舎は健康センターを含めた本庁舎方式としております。人口減少社会や行政改革の推進により、職員数の削減は避けられないものと考えておりますので、職員数が減少した場合には、健康センターに配置している部署（建設部の予定）を移転することにしております。</p>
2 3		<p>3. 【意見】        変化の激しい情勢に対応するためにも、現状の職員数や業務内容を基本にした規模での建て替えは、将来世代の負担となる可能性が高い。</p> <p>【理由】        将来的な少子高齢化や人口減少は不可避であり、職員数の削</p>	



		<p>減をせざるを得ない状況も現実となる可能性が高いです。また、近年のA Iなどの技術革新により、テレワークの採用や業務が機械に代わってくることも予想され、近い将来、現状ほどの職員は不要となります。</p> <p>庁舎内で働く職員が減ることは、必要とされる床面積も大幅に少なくなることを意味します。今建て替えて大きく作ってしまうことは、100年にわたりその面積を維持することを意味し、不必要となる部分の維持管理費や光熱水費、改修費などが将来の重い負担となります。</p> <p>以上の点を踏まえ、大規模改修（防災機能のみ免震構造で増築する等）して使い切ったうえで、30年後の将来世代に選択をする余地を残してあげることが、今の世代として必要ではないでしょうか。</p>	
24	その他	<p>大型ネプタはいらない。運行数も少ないし小屋に眠っているだけで経済効果もあまりないのでは。多くの人に来てくれる平川市独自の何か考えた方が良いでしょう。</p>	<p>市民ワークショップでは、世界一の扇ねぶたについても様々な意見を頂いておりますので、今後、これらの意見を踏まえながら対応して参りたいと思います。</p>

市外の方からのご意見

No	項目	意見等 ※原文掲載	市の考え
25	P1 設計趣旨	<p>・「新世代の市民ホール」、「新世代の庁舎」、「新世代のサービス」、「未来の市民サービス」とは、どのようなイメージなのか。何年先をイメージしているのかわからないが、未来ばかり重視され、現状（足元）が見えない。</p>	<p>基本計画に示されている新本庁舎建設の基本理念に沿って、各階の平面計画などを検討しています。その詳細についてはゾーニング計画・動線計画の各階に関する説明に記載させていただきました。設計趣旨に記載した3つのコンセプトは、今後、庁舎を長く使っていく中で想定される多様なサービスのあり方を受容できる建物を考えたものです。</p>
26	P1 設計趣旨	<p>・省エネルギーによる環境配慮について、今後のランニングコストの見込みを示して欲しい。また、それらについては、既存庁舎との比較可能なものとして欲しい。</p>	<p>既存庁舎は建築年代が古く、建物本体の省エネ性能や設備の仕様が異なるため比較できるものではありません。 建設後のメンテナンスのあり方を踏まえ、耐久性や維持管理しやすい建築材料の採用や建物内のエネルギー使用状況などを監視するシステムを導入し、光熱水費や燃料費などランニングコストの縮減が可能となるよう比較検討しながら設計を進めています。</p>
27	P2 計画概要	<p>・建築に関する基本事項かもしれないが、素人にはわかりにくいので、わかりやすく示して欲しい。</p>	<p>計画概要は建設地における法規制など設計するにあたって必要な情報や設計している建物・設備の情報などを記載しています。専門用語の表記もありますがご了承願います。</p>
28	P2 計画概要	<p>・概算事業費55億円ということは、市民1人あたり約20万円の負担を強いることについて、市民の皆さんは御存知なのでしょうか。合併特例債を活用するとはいえ、税として負担する部分がどれくらいになるのか、もう少し市民に発信すべきと考えます。</p>	<p>概算事業費約55億円に合併特例債を活用した場合、補助金（交付税算入）の財源を除く市の実質負担額は約30%の約18億4千万円となります。平成30年3月末人口31,522人で除すると、1人当たり約5万8千円となります。 当市では、合併振興基金や公共施設等整備のための基金（貯金）を積み立てており、この基金を活用することや合併特例債（借金）を約30年の長期間にわたり償還（返済）することで、償還期間において急激な財政負担を生じさせず、財政運営に支障をきたさないよう計画的に進めているところです。なお、新本庁舎建設によって市民の税負担が増えることはありません。</p>
29	P3 配置計画	<p>・敷地を有効活用するという考えはわかりませんが、敷地内及び庁内の動線が長いことが気になります。バリアフリーで段差をなくすのも当然ですが、高齢者や障がいのある方は、歩くことも大変だと思います。また、動線が長いことによる融雪や暖房の経費も増大することが考えられます。大きい施設がフレキシ</p>	<p>現庁舎を利用しながら、同一敷地内での建て替えを行うという条件のもと、建物配置を検討しています。東側駐車場だけでなく、西側駐車場も来庁者用駐車場とし、グランドフロアからのアクセスも確保することで動線が短くなるよう配慮しています。建物内の動線も三角形平面を活かすことで窓口カウンター</p>

		ブルなのは、あたりまえのことであり、コンパクトな中であっても使いやすくフレキシブルであることが技術であり知恵なのではないでしょうか。	間の移動距離が短くなるよう配慮しています。融雪や暖房にかかるランニングコストは運用方法も検討しながら出来るだけ縮減できるよう実施設計に取り組んでいきます。
30	P3 配置計画	・駐車場の台数は、どのように試算しているのでしょうか。一般の来庁者ようであれば台数が多く感じます。職員通勤用駐車場であれば、税金で整備する必要はないと考えます。	新本庁舎における必要駐車台数は、繁忙期で来庁者用100台、職員用260台、計360台と見込んでいます。現在の設計案では286台が駐車可能台数としているため、差引74台は中央公園や健康センター駐車場を職員が利用することになります。 職員用駐車場については、平賀地域においては通勤時間に市内を運行する循環バスが運行されていないこと、平賀地域以外においては鉄道に接続する路線バスが通勤時間に運行されていない又は乗り継ぎがスムーズではないこと、災害時には職員が防災拠点である本庁舎に速やかに参集し事務を遂行する体制を整えるため、整備するに至ったものです。
31	その他	・新庁舎建設については、以前から非常に興味を持っておりましたし、情報の開示が少ないことを疑問に思っていました。その中で市民ワークショップは、どのような方を対象にし、どのように募集して行われたのでしょうか。この件に関して、興味を持っている市民はたくさんいると思いますが、そのような方に参加の機会が与えられなかったのか残念に思います。	No.19「市の考え」記載のとおり
32	その他	・建物の長寿命化という点では、現庁舎を建て替えるということに疑問が残る。 建築後一定期間が経っているので、現状の利用に合わない点が出るのは当然のことであり、それらを大規模改修等で補っていくものと考えるが、仮に庁舎を40年で建て替えた場合、学校、体育施設、公民館等も同様に40年程度で建替えしていくのか。公共施設を維持管理・更新していく上では庁舎はシンボリックな建物であること、広く市民が利用する施設ではあるが、それはほぼ窓口機能ばかりで市職員の執務空間という面の大きい中では、庁舎こそ長く大切に使うべきであり、その意味では既存庁舎の活用の可能性をもう少し深く検討できなかったのか疑問に思う。	No.21「市の考え」記載のとおり